

# 学習と「書く」

前田 昌平

Learning and “Wrighting”

MAEDA Shouhei

(Received August 6, 2014)

キーワード：言葉、思考、振り返り、ひとり勉強

## はじめに

「書く」は「考える」であり、「書く力」を磨くことは「考える力」を鍛えることにつながる。そして、「書く」の上達は、手を動かして「書く」ことにある。話し言葉と違い、「書く」にはその行為を支える意志と道具が必要になる。「書こう」と思ったときに、必要な用具が手元にあることが意外と大事になる。便りを書くことを思い立っても、その度に筆記用具や葉書、便箋、封筒などを探すようでは書き気が失せてしまう。子どもにとっては、ノートや筆記用具が必需品になる。それらを身近に置くところから子どもの「書く」は始まる。

「書く」場面は様々に考えられるが、本稿では、「ひとり勉強」と「学習の振り返り」に視点を当て、ここでの「書く」が、「話し合い・聞き合い」学習を支える重要な役割を果たすことに着目したい。2つの学級の取組みを手がかりにする。どちらの学級にも互いによく話し、聞き合い、学習を深めていく子どもが育っている。時代は大きく離れているが、どちらの学級の取組みでも大事にされているのは全体学習前後の「ひとり勉強」と「学習の振り返り」であり、ここでの「書く」である。

一つは、田中淳夫氏の学級の取組みであり、もう一つは紅林智子氏の学級の取組みである。

## 1. 田中淳夫学級の「書く」

### 1-1 「石うすの歌」を読み込んでいく学習全体の流れ

単元は第一次から第七次までの学習活動で構成され、取組みの大きな特徴は全体学習と全体学習との間に必ず「ひとり勉強」の時間を設けていることである。およそ次のような流れである。

「ひとり勉強」→第一次「物語の時代背景を探る」→「ひとり勉強」→第二次「学習計画を立てる」→「ひとり勉強」→第三次「おばあさんはいやがる千枝子にああまでしてなぜ石うすを好きにさせようとしたのか」→「ひとり勉強」→第四次「石うすが人の心持ちを歌うとはどういうことか」→「ひとり勉強」→第五次「瑞枝の父母が死んだ時の瑞枝、千枝子、おばあさんの気持ちは」→「ひとり勉強」→第六次「八月十二日の千枝子の気持ち、「勉強せえ…」はだれの心か、じつと…の意味」→「ひとり勉強」→第七次「石うすの歌を通して作者は何を言いたかったのか」→「ひとり勉強」

第二次「学習計画を立てる」は、それまでの「ひとり勉強」をもとにそれぞれの子どもが考えた学習問題を整理分類し、さらに集約してみんなで考えたい共通問題を設定する学習活動である。問題解決学習の核になる「共通問題づくり」をしている。子どもだけではできない。教師の出番である。一人ひとりの子どもの読み取りを生かす丁寧な教師の出が求められる。それだけに、一人ひとりの子どもがじっくりと作品を読み込み、考える「ひとり勉強」の重要性がうかがえる。

第三次以降は、学級全体でその時間の学習問題について聞き合い、話し合う活動をしている。ここで子どもは自分とは違う読み取りや考え方に出会い、ゆさぶられ、自分の考えを深めていく。

全体学習前後の「ひとり勉強」が互いに学び合う学習の成立を支え、共通問題について互いの考えを聞き合い話し合うことが「学習の振り返り」を充実させ子どもの思考を深めていくことをS君の「ひとり勉強」での「書く」をたどりみていきたい。

## 1-2 「石うすの歌」を読み込んでいくS君のひとり勉強

第一次での全体学習以前の「ひとり勉強」

○2回読む 考えたことを書いた

さいごに千枝子とみず枝が力を合わせてうすの重さをのりこえていくところが一番心に残った。楽しい生活の中でも、落とし穴はあるものだなと思った。精も根もつきはてたおばあちゃんをたすけて石うすをまわす千枝子とみず枝は心が強いなあと思った。特に、みず枝はすごい。一ぺんに父と母をうしなって物も言えないようなショックをうけたのに、すぐにたち直って千枝子と力を合わせる。本当に心の強い子供たちだなと思った。

○3回読む 考えたことを書く ことばの意味調べ→巻き物に記入

※巻き物—全文コピーを横長に貼り合わせ巻き物風にして行間に書き込めるようにしている。

戦争中の子供たちは、かわいそうだと思う。食料は足りないし、テレビなどのご楽の道具もない。しかし、そのきびしく、つらい生活の中でも楽しいことはある。石うすの歌で言えば、だんごを食べたりお盆のおまつりに行ったりすることだ。それに、ぼくたちのように物をそまつにあつかわない。いろんなつらい目にあっているのだと思う。瑞枝にしても千枝子にしても、苦しいことにたえることができたのは、小さいころからいろんなつらい目にあっているからだと思う。よく考えれば、かわいそうなのはぼくたちなのかもしれない。

○問題づくりを始める 考え方ことを巻き物に記入する

問題を作り始めたが、まだ作品の主題がわからない。そのかぎが最後の所にあるのではないかということならわかるが、はっきりどういうことかというのはわからない。問題の一つに主題はどんなことかというのを入れようと思うが、それまでになんとかつきとめておきたい。

○2回読む 考えたことを書く→巻き物 問題をまとめる

うすの重さというのは、実さいは人間の苦勞のことを言っているのではないだろうか。でも、二人で回すとうすの重さは半分になります。というのは、二人でやればその苦勞も半分になるといいたいのではないかと思う。そして、その苦勞にたえるだけの心の強さ、たくましさを持ってというのが主題ではないかと思う。もっともこれは直観的な考えであって、資料もあまりない。だけど授業の時には、できるかぎりがんばってみようと思う。

第三次での全体学習後の「学習の振り返り」

「おばあさんはいやがる千枝子にああまでしてなぜ石うすを好きにさせたのか」

○ぼくが家でみつけてきた意見は、千枝子に昔話のひとつとして石うすの歌をきかせたのではないかと思っていた。しかし河野君の意見をきいて考え方が変わってきた。人生楽があれば苦もあるということが実際はいいかたつたのではないかと思う。しかし、中に戦争と平和ということを書いた人がいた。ぼくは、戦争と平和という一つのことだけではなく、人生のすべての苦しきことがいいたいのではないかと思う。しかし、どちらにしても、おばあさんの千枝子に対するやさしさが表れていると思う。人生について千枝子にもわかるようにだんごとうすの重さにあてはめて、なんとか教えてやろうとしたが千枝子にはわからない、という時のおばあさんの心持ちは残念さでいっぱいだったのではないかと思う。そのおばあさんの気持ちが千枝子に通じるには、最後のところまでまたなくてはならない。

第四次での全体学習後の「学習の振り返り」

「石うすが人の心持ちを歌うとはどういうことか」

○「だんごがほしけりゃうす回せ」というおばあさんの言葉のいみは始めからおわりまで苦しきからにげずに正面からぶつかっていけば良い結果があるということだった。しかし、千枝子の「だんごがほしけりゃうす回せ」という言葉の中にぶきみというのがでるとは思わなかった。ぼくは面白半分で言ったのだと思った。一段落のおわりのおばあさんの言葉は、さっきの「だんごほしけりゃうす回せ」という歌をわ

すれないよう、またその歌のいみをわからせるために言ったのだと思っていた。しかし、その他に河野君の好きだったら、うすを回すのも上手になるという意見がでた。ぼくは、おばあさんの言葉の中にはそれはないと思うのだけれど、いつも人と同じことばかり考えてはいない河野君はすごいなあと思った。二段落の千枝子は、おばあさんのひいていたひきうすのそばにすわり…というところの千枝子の気持ちは「大きくなったような」というところから考えたけど、自分が一人でもうすがひけることを瑞枝たちにみせたかったのではないかと思う。子供のころは、人に自分が大人であるようにみせようとするし、また子供だと言われるのをいやがる。そんなところから、自分は瑞枝よりおとなになったということを示したかったのではないかと考えた。おばあさん達に「だんごほしけりゃ…」をはなした時におばあさん達がわらったのは、おばあさんの気持ちに気付かない千枝子の無じゃ気さをわらったのだと思う。

#### 第五次・六次での全体学習後の「学習の振り返り」

「八月十二日の千枝子の気持ち、『勉強せえ…』はだれの心か、じつとりと…の意味」

##### ○八月十二日の千枝子の気持ち

千枝子は、八月六日からのつらさの中で大きく成長したと思う。人の気持ちを見る目、人のなぐさめ方などは、特に良くなったと思う。だから千枝子はまよってはいないと思う。悲しいおばあさんの気持ちをよくわかってやり、たいどでおばあさんをはげますというすばらしいことも六日間のあいだに身についたことだ。だから苦しさはのりこえればすばらしい幸いに変身する。

##### ○勉強せえ…はだれの心か

「勉強せえ…」のことばは、千枝子が自分自身に言ったことばだと思う。言葉づかいはまるでおばあさんのようだが、それは千枝子が自分がおばあさんに言われているような気分になっているせいである。

「だんごほしけりゃ…」の本当の意味が千枝子にはやっとわかったのである。しかし、磯村さんの「うすのはげまし」という考え方は独そう的で本当に面白いと思った。

##### ○なぜ二人はじつとりとあせをかいたのか

ぼくは、立ち直るのは苦しいことだけれど、しかしそれをのりこえて立ち直るという三人の強さのことが言いたかったのではないかと思う。じつとりというのは、にじみでてくるようなことだから、苦しさにじわじわとせめられるのをたえようとするのがよくわかる。

#### 第七次での全体学習前の「ひとり勉強」

「石うすの歌をとおして作者は何を言いたかったのか」

##### ○千枝子は、おばあさんをはじめ家中がくらくらするので、みんなをはげまし、なぐさめようとしている。

101ページ「おばあさん、わたしがひくわ。」…すわりました。

102ページ千枝子はそれを見てみぬふりで

千枝子も瑞枝も、ひたいにじつとりとあせがでできました。

↓

あせ…苦しい時にでるもの＝つらいことをのりきるんはかん単にはできないことだ。

↓

千枝子も瑞枝もつらい、たちなおっていないが、たちなおろうとしている

↓

作者が言いたいのは、苦しいことでもがまんしてのりこえていけということではないか。

#### 第七次での全体学習後の「学習の振り返り」

○独り勉強している時は、石うすの歌の深い意味はよくわからなかった。作品の主題を探ってみても、それがなんであるかというのによくわからなかった。主題がわかりはじめたのは、一番最初の「なぜおばあさんはいやがる千枝子にああまでして石うすを好きにさせたのか」という問題をといてからだ。その授業の中で河野君と田辺さんが「苦あれば楽あり」という意見をだしたけれど、それが主題に近いのではないかという案が頭の中にかんできたのだった。それは次の、瑞枝の父母が死んだ時の三人の気持ち、また、勉強せえ…の所やひたいにじつとりと…の所を勉強していよいよたしかになっていった。とくに最後の「なぜ二人は額にじつとりとあせをかいたのか」という問題をした時にははっきりとこたえがでた。

作者はつらさ、苦しさから立ち直る千枝子と瑞枝から苦しいことでもがまんしてのりこえていけ、ということがいたかったのではないかと思う。そしてその苦しさをのりこえたときに人間は本当に成長し、強くなるのだということも。千枝子ははじめ本当にわがままな少女だった。しかし石うすをすきになることによってちょっと大人になり、八月六日から十六日までの間には、おばあちゃんの「だんごがほしけりゃうす回せ」の意味がわかり、行動で人をなぐさめることができるほどまで成長したのだ。ぼくたちもそれを見習わなければならない。とにかく、そのぼくが考えた意見と他の人の意見を対決させるのが今日だ。意見は、戦争と平和というのと人生についての二つに分かれた。ぼくは人生の方だ。

戦争もふくめてとにかくこの世の苦しみ全部をのりこえなければほんとうの幸福はおとずれないからとにかく苦しいことから立ち直らなければならないというのがぼくの考えだ。つまり、ぼくから言えば、戦争よりももっと身近にも大切なことがあるのだ。授業のときに山尾さんや河野君のように「原爆で死んだららはがたつけど病気で死んだらあきらめられる。」というムチャクチャないけんもでた。死、というものは死因がなんであろうと悲しいものだ。それをあんなに言う人がいるとは思わなかった。結きよくけつちゃくはつかなかったけど、ぼくは用意していたネタを全部いってしまったのですっきりした。ぼくの意見はさいごまでくるしさをのりこえるということで、戦争には変わらなかつた。石うすの歌の授業では考えたことを沢山言えたのでおもしろかった。

S君は「石うすの歌の授業では考えたことを沢山言えたのでおもしろかった。」と「学習の振り返り」を締めくくっている。S君の「考える」「沢山言えた」を生み出したものは「ひとり勉強」「学習の振り返り」での「書く」ではないだろうか。読んで感じたり、疑問に思ったりしたことや友だちの発言を聞いて感じ考えたことを文字にして「書く」ことが読みを深め、思考を深めているのではないだろうか。それが、新たな問いを生み、S君の探究心を高めていく。「自分とは違う考え」を認識できるということは、「自分の考え」がはっきりしているということである。その「自分の考え」に至るプロセスで大きな働きをしている学習活動が「書く」だと考えている。その時に発見したことや疑問、感じたことや考えたこと等を文字にして「書き」残すことができる人類の力は素晴らしいと思う。聞こえる端から消えていく音声と違い、再び読み返すことができ、そこに記されている考え方や思いをさらに深化発展させていくことができる。

そのS君の「書く」を支える原動力になったものはなにか。「書く」の内容を丁寧に受けとめ勉強の頑張りを認めてくれる教師と学級の仲間との存在ではないだろうか。「言えた」の向こう側にも学級の友だちと教師がいる。S君の「ひとり勉強」「学習の振り返り」での「書く」を熟読すればするほど、そこには「よく聞く耳」をもった「よい聞き手」の姿が浮かび上がってくる。ここで、第七次の全体学習の記録をみていただきたい。

### 1-3 「石うすの歌」第七次の全体学習の記録（録音を文字に起こした発言記録-S君の発言前後を抜粋）

第七次 石うすの歌を通して作者はなにを言いたかったのか。

（各自、本文を読み返したり、書き込み作業をしたりしている。）

（本時の問題をみんなで読む）

- T 1 戦争ということを書いていた人が多かったので、その人の意見から聞きましょう。
- C 1 作者の壺井さんは読む人たちに、戦争のために父母を失ってとても悲しい思いをした瑞江みたいな子を出さないでくれと言いたかったのではないのでしょうか？
- C 2 ちょっと質問をしたいんだけど、ここで作者は「戦争で瑞枝みたいな子どもを出さないようにしてくれ」って言いたいんだと言ったよね。なら、題を「石うすの歌」にするよりも、その一、戦争のことっていうか、いろいろあらあね、もし、戦争のことでいろいろ言いたいんだとしたら、この「石うすの歌」っていうふうな題をつけたところはどういうふうに解釈するんですか？
- C 3 それは、あの一、僕も戦争のことを書いているという意見なんだけどねえ、それは、はじめからもう、題から戦争のこととか、戦争はこねえなこととか、そんなことを題にするよりも、みんなによくわかってもらえるように戦争をもろに言うんじゃなくて、石うすとか瑞枝とかの子どもたちが出るというところでだんだん戦争ということを考えていってもらいたかったんだと思います。
- C 6 ○○君（C 3）のさっきのにつけ足し！ 戦争をじかに書くと、戦う人ばかりで、国民とか下



で生活とかそういうものを支えている人はあまり主じゃなくて、戦う人ばかりが主じゃあねえ、だから、石うすっていうのは、田舎で隠れてこういうふうに使っていた苦勞とか、そういうことも言いたいんじゃないかと思うので…（S1 意見！）（T2 まあ、聞いてやろうよ。）僕は、「戦争」と「苦あれば楽あり」というのは大体同じことだと思うので、二つを僕は一緒にしてもいいんじゃないかと思うので、僕は二つとも書きたかったんじゃないかと思います。

S2 えーっと、それじゃあ、最後のところに、二人が立ち直ろうとするところがあるでしょう？あれは一体なんの役目をしてるんですか？

C7 二人が立ち直るところでしょう？ えーっと、立ち直るところは……。 （C 102ページ！）立ち直る？ えーっと、ちょっと立ち直るちゅうのが僕にはよく理解できないんで、ちょっと、もう少し詳しく説明してください。

S3 えっと、この前の時間にねえ、僕が出した意見でね、汗が出るってことだからね、二人ともがね、二人とも立ち直ろうとしているってことが出たろう？ そのことは、そのね、その立ち直ろうとしているってことはねえ、戦争を非難するのにどういふふうな役目をしているんですか？

C8 それは、原爆で日本は降伏したよね、アメリカに。それで、そのときは配給もまだ直ってないよね。まだ、そこでも苦しんでいる。それで、戦争が終わって急に楽になるんじゃないくて、今の時代にもどそうと一生懸命になっているという気持ちが、あの「千枝子も瑞枝も、額にじっとり汗が出てきました。」につながるんじゃないかと僕は思いました。

T3 新しい世の中を作ろうとするところだね。（板書）これでいいの？

S4 えーっと、この中で「石うす」がずっと出てきて、「石うすの歌」というのは役目が大きいでしょう？ それは一体、戦争とどう関係があるんですか？

C9 その質問は、さっき僕がしたことと同じようなことじゃない？ 「苦あれば楽あり」のことと同じようなことじゃない？

S5 だから、なんで「苦あれば楽あり」とつながるん？

T9 じゃあ、〇〇さん。あなたは戦争だという立場でしょう？ ここであなたの考えを聞かせてください。

C25 今の〇〇さんで言うと、私は人生とかいうのではなくて、なんていうのかなあ、壺井さんという人がそんなはじめから終わりまで戦争のことばかり、だらだらと言ったらいけないけどね、まあ、そんなはじめから終わりまで書くというよりね、この3行かいね？ この3行でみんなにわかしてもらいたいというか、そういう気持ちがあつて、この3行だけにまとめたんじゃないかと私は思います。

S7 みんな残された人の……。 （C えーっ？） <早口で聞き取れない。>

T10 もうちょっとゆっくり言ってくれる？ あわてないで…。

S8 みんなね、残された人の悲しみとか書いてあるでしょう？ ああいうのね、全部ね、死んだのは戦争だけじゃないでしょう？ 病気だって死ぬしね、交通事故だって何人も死ぬでしょう？ 人はだからね、戦争だけじゃなくて、人の死んだときの悲しみを乗り越えるってことが言いたいんだったら……戦争が一番、人が殺されるでしょう？……だから、それを例にあげただけで、今だったらもっと他にも死ぬことがあるでしょう？ だから、ぼくらはねえ、僕らはねえ、もっと身近なことでもあるっていうか、だから、苦しいことでも乗り越えるっていうことが一番大切なんじゃないかなあ。

C26 僕も大体そう思うね。いつまた僕らが戦争を起こすかもしれなくて、そんないつ起こるかもわからんようなことは……それは起こらんかもしれんよ。そんないつ起こるかもわからんことを書くじゃろうかと思うんよね。もっと戦争をくわしく、苦しみとか悲しみとか感じてほしいんだったらさあ、こんな平和な村を取り上げんと、もっと戦争の空襲の激しいところとか、そういうところを取り上げると思うんよね。その点がよく理解できんそいね。まだ、〇〇さんの意見だけではわかりにくいので、そこをもう少しくわしく言ってください。

T18 じゃあ、それに対して答えて！ ウーン！ 〇〇君、今日は君の問題なんだけど、君は戦争の立

場でしょう？ 君、今の〇〇さん（C36）の質問に答えてくれる？

C37 あの一、すいません、もう一度、言ってください。

T19 はい、じゃあ、もう一回よくわかるように言ってあげて！

C38 戦争について3行しか書いてないっていうのは、戦争についての考えの人はあの一、今、戦争のことを書いても私たちは戦争を見ていないんだから、あんまりよくわからないから、残された人の悲しみってのも、あの一、私たち、お父さんとかお母さんとかあんまり身近な人を亡くした人はいないでしょう？ だから、残された人の悲しみっていうのもそんなにわからないんじゃないですか？

C39 だから、あの一、戦争は人類に不幸しかもたらさないでしょう？ だから、作者は平和をあの一、平和の願いを言いたかったと思うんよ。それで、それは、あの一、広島のうちには原爆で消し飛んでしまっただけのお父さんもお母さんもどうなったかわからなくなってしまっただけで、その戦争の恐ろしさが、いや、その戦争の恐ろしさで、その、原爆の恐ろしさがわかって、だから平和を願ったんじゃないですか？（C えーっ！ 意味がちよっと違うんじゃない？……ザワザワ）

S9 （座ったままで）〇〇さんが聞いているのはねえ……。

T20 じゃあねえ、別の人が今度は、今の〇〇さん（C38）の質問に答えてくれる？

C40 〇〇さん（C38）は、今、父母を亡くしている人はあまりいないって言ったでしょう？けどねえ、そういう人はね、この世の中にたくさんおるよ、ほんと！ それで、僕のいともね、お母さんがおらんいとことお父さんがおらんいところおるんよね。そういう身近にいろんな人がおるんやからね、あの一、現在では、あの一、戦争をやるより、どっちかというたら、父母を失った方がね、あの一、書いた方が戦争よりわかりやすいと思って書いたんじゃないかと思います。

C43 さっき、〇〇君（C40）が言ったように、今でもお父さんやお母さんを亡くした人がいるって言うんなら、そんな人に、戦争を今起こさないでほしいという願いをかけて書いても、今そういう人たちでこそ大事なものは「苦あれば楽あり」ということだと僕は思うので、だから別に戦争のことを今……そりゃあ、戦争を今起こさないでほしいというも今の時代は少しはあるかもしれないけど、そういう、今、父母を亡くしている人に対して必要なのはやっぱり、「苦あれば楽あり」ということだし、人生今から生きていくためには「苦あれば楽あり」ってことも、みんな「苦あれば楽あり」ってことなので今、戦争、戦争といってもそれは別にしかたがないんじゃないですか？

T21 ちょっと待って！ あの一、ね、本のおばあさんも千枝子も瑞枝もみんな離れちゃってねえ、感覚だけの話になっちゃったでしょう。と、これはもうかみあわなくなるのね。そうでしょう？これはちょっとまずいね。みんなの意見としてね、わかりにくくなるんじゃないでしょうか。もう1回、おばあさんとかね、千枝子、瑞枝の立場のへんにかえりながら話を進めていってもらいたいと思うんですけど。

今、戦争について考えてきたね。反論もありました。人生の立場の人たちからね。

じゃあ今度は、人生の立場というところが壺井さん言いたかったんだなという人がおるね。その人はもう少しわかるように説明してもらってね、それを考えていってみたいと思います。

人生の立場の人？ はい、じゃあ、〇〇さんから……。

2時間続けられた授業の前半45分間の記録から、紙面の都合上、S君の発言の前後を抜粋した。そのために、発言番号が行を空けてとんでいる。それでも、子どもの発言力と学び合う学習力の高さに圧倒されてしまう。子どもの本気が伝わってくる。「ひとり勉強」と「学習の振り返り」が「聞き合い・話し合い学習」を支えている。その聞き合い話し合う学習がさらにその後の「ひとり勉強」と「学習の振り返り」の内容を深いものになっている。みんなで考え、みんなで深めていく学習が展開されている。自分とは違う読み取りや考え方に出会い、子どもはさらに自分の読みに対する意味付けを吟味し、思考を深めていく。

教師自身の作品に対する教材研究と授業実践に対する探究心が学級の子どもを育てているのだと考える。子ども同士のやりとりがその時間の学習問題から離れず、思考を深めていく活動になっている。その支えになっているものが要所での教師の出であることを記録が物語っている。

また、全体学習の深まりを生み出しているのは一人ひとりの子どもの考えであり、その考えを支えている

のが「ひとり勉強」や「振り返り」での「書く」という学習活動である。

この授業が行われたのは昭和56年(1981年)12月であるから、今から33年前のことである。

## 2. 紅林智子学級の「自学帳」

ここに記せる発言記録がないので前田が目にし耳にした学習の様子を簡略に記す。

「よく聞く耳」をもった「よい聞き手」「よい話し手」が育っている。相手に対する温かい思いやりと、共に学習を深めていきたいとする意志が感じられる子ども同士の発言は、前記の田中学級の子どもと重なる。学習形態が柔軟で、必要があれば教室のあちこちで子ども同士の聞き合い話し合いが始まり、ひとしきりざわざわと子ども同士の相談が続く。席を離れて話したい人のところへ移動する子どももいる。2～3分立ったところで誰かが「今、〇〇さんたちと話しているときこんなことを思いついたんだけど、みんな聞いてくれる？」と声をかけ、それを契機に全体での聞き合い話し合いにもどる。みんなでの追究が壁にぶつかると、再びざわざわと周辺での相談が始まる。学習が少しずつ高まり深まっていく様子が見える。子どもの表情には笑顔が多く、笑い声が何回も起こる。それでいて教室は、一生懸命考えているという緊張感に包まれており子どもの本気が伝わってくる。教師は穏やかに子どもの動きを見守り、学習活動の今を確認したり内容の整理をしたりしている。

4月当初に最も力を入れて取り組むことは「聞く」「聴く」であり、徹底して指導するとのこと。上学年であっても学年始めは初心に戻り、学習の基本を徹底的に再確認する。それが紅林学級では「聞く」であり、「黙聴」が活発な聞き合い話し合い活動の中心にある。特筆すべきことは、学級全体で話し合い、聞き合う形態の授業時間は、年間授業時数の2割にも満たないと明言されることだ。毎日のように話し合いをし、話すことに時間をかけているわけではない。にもかかわらず子どもに発言力がついている。「よく聞く耳」をもった「よい聞き手」が「よい話し手」を育てているということだろうか。「話し手」の「聞く力」を磨くことにも力を入れるとのこと。聞き手の様子や心の声を受けとめながら話すということである。

素直な子どもらしい顔をしている。ほがらかに話し、聞き返す。笑顔があふれる。わきあいあいとして活発でありながら、穏やかでもある。一人ひとりの子どもが自分をもっている。そんな印象を受けた。そこで改めて気付かされたのは、子どもが知的な目をしていることである。考えることを楽しみにしている様子がかがわれる。そんな紅林学級では、「聞く」と併せて「書く」にも力が注がれている。

ここで、紅林学級の子どもが取組んでいる「自学帳」に注目してみる。平成25年度の取組みである。

子どもの学習力を高める実践的な取組みであり、教職を目指す学生や現職教員の方々の参考になれば幸いである。

### 2-1 Fさんの自学帳

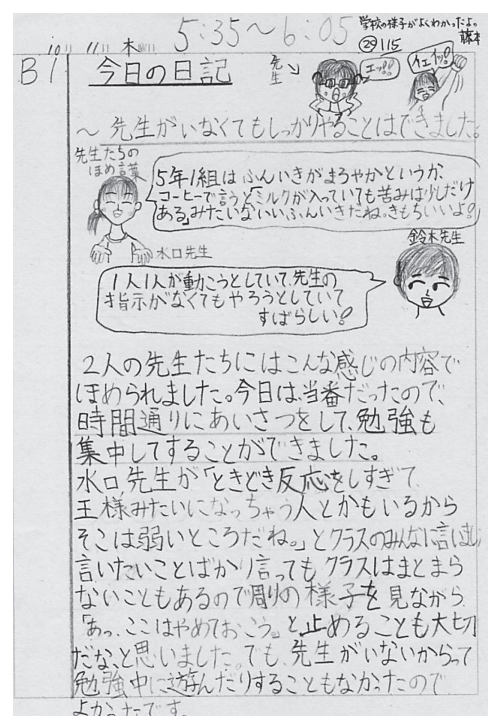
- ・頁上部に勉強を始めた時刻と終わりの時刻を書き込んでいる。
  - ・保護者のコメントがある。
  - ・期日が記されている。
  - ・B1 今日の日記 とある。
  - ・日記の題があり、本文がイラストとともに書き込まれている。
- この日の日記の内容から紅林学級の様子をうかがい知ることができる。

「ふんいきがまるやかというか…きもちいいよ。」

「1人1人が動こうとしていて先生の指示がなくてもやろうとしてすばらしい。」

補教教師の言葉を日記にしている。

担任が出張していない日をどう過ごすか？学級としての真価が問われる。ほめられたことがうれしかったのだろう。「書く」ことでその日を振り返り、耳にした言葉を文字にして再現するところに内容を楽しんでいる顔が浮かんでくる。





他の日の自学帳もいくつかのぞいてみる。

(9月11日)

- ・見開きの頁を使っている。
- ・左頁はA1算数の授業とあり、その日の授業を振り返っている。
- ・右頁はB7ことわざとあり、調べたことが書いてある。

9月11日 火曜日 3:10~3:25

### A1 算数の授業

心に残った友達の意見  
今日の授業で さやかちゃん ④ ゆうなちゃんの方法と みのりちゃんの方法がよくわかった。

さやかちゃん ④ ゆうなちゃん方法 倍数字方式 → かけ算	みのりちゃん方法 約数字方式 → わり算
----------------------------------	-------------------------

① → 12, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36

② → 2, 4, 6, 8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22, 24, 26, 28, 30, 32, 34, 36

③ → 3, 6, 9, 12, 15, 18, 21, 24, 27, 30, 33, 36

\* → 4, 8, 12, 16, 20, 24, 28, 32, 36

\* → 5, 10, 15, 20, 25, 30, 35

⑥ → 6, 12, 18, 24, 30, 36

整数でわれる数は  
12 = 1, 2, 3, 4, 6, 12  
18 = 1, 2, 3, 6, 9, 18

この2つの方法でわかったこと

さやかちゃんと④ゆうなちゃん方法は倍数字でかけているが、みのりちゃんは反対で約数字をしわっていたことだヒョーン？

自分では思いつかなかった方法なので、わがままな感じはしませんでした。

9月11日 火曜日 6:15~6:40

### B7 ことわざ

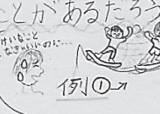
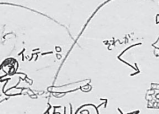
倍数と約数をセパレートね。⑩

#### 人犬も歩けば棒に当たる

↓意味は2つ

① 犬もあちこち出歩くように棒でぶられることもある。  
→ じいといれば安全なのにわざわざ出歩く(積極的に行動弱)から危険な目にあふよけなことをするな

② 犬も出歩けばなににかいいことにあたり当たることがある。  
→ 積極的になににかいいことがあるだろう

例① →  例② → ヤッター 

#### 2. 急がばまわれ

↓意味は1つ

あせって近道をするより遠まわりして安全な道を選ぶ方がよい。なににごともあせらず失敗や危険をともしなから落ちついて行動しよう、ということ。

10月5日 金曜日 4:20~5:00

### A4 明日の授業(問題になりそうな)

国語の『大造いさんとがん』

今日の国語では「自力読み25の観点」のおひ...  
② (クライマックス)をやったよ?

クライマックス = 話の最も盛り上がる部分

このクライマックスは、  
① 結果の生き方見つけがしが入っている所  
② 語り手(語り)は/語者(語り手)が見せる所  
③ クライマックスの中で一番盛り上がる所が入っている(です)

ん〜わたしたち的には、90ページの「わたしたち」はならぬ仲間のかたがたがた...だと思っただけな。あるし...みんなはわたしとかが...いた...から、どうなんだろう...

明日はこの構造2のクライマックスから始める  
ここからは↓予想です?  
自分の思っクライマックスをみんなに伝える  
次に  
その中にも多かったものをクライマックスにしてもう一度  
構造3へ進む (1時間にははなしてやるか)

おー?こんな感じになるのかもしれない★  
あ、明日の国語の授業で  
クライマックスが決まってるので  
話し合いたい。

10月5日 金曜日 6:00~6:35

### B7 ことわざ

本朝出版社に売りたい。

今日は、  
実さしい確かめることができる(へに確かめたいの)ことわざしようかいるヒョーン

#### 1. 寝耳に水

↓意味は1つ

寝ている時に水を入れたら  
とてもおどろく、寝ている時に洪水の音が聞こえておどろくことを言う説もある。  
つまり...  
→ 急に突然のことにおどろくということ。

#### 2. 二階から目薬

↓意味は1つ

二階から目薬をたらしても  
なかなか目に入らない。  
→ ものごとく思うように進まず、もとかれくじれたいこと。

ほかにもあれん...ということわざもあるん...  
あ、明日の国語の授業で  
クライマックスが決まってるので  
話し合いたい。



(10月5日)

- ・見開きの頁を使っているのは同じである。
- ・始めと終わりの時刻が書き込んである。
- ・期日が記されている。
- ・左頁はA 4 明日の授業で問題になりそうなこととあり、国語「大造じいさんとがん」について書いてある。
- ・右頁はB 7 ことわざとあり、調べたことが書いてある。
- ・右頁上部に保護者のコメントがある。

子どもがテーマを設定して勉強している。書き込まれている時刻から、できる時に集中して勉強していることが分かる。勉強にかけた時間も分かる。内容が興味深い。左側の頁では、その日の授業を振り返ったり、明日の授業で問題になりそうなことを考えたりしている。右側の頁では、ことわざを調べたり、日記を書いたりしている。一生懸命考えている。やらされている勉強ではない。楽しんでいる様子が浮かんでくる。このような取組みの積み重ねが着実な力となって子どもに返り、みんなで考え、みんなで深める学習を支える学習力になっていくのだと考える。

参考に9月11日から10月10日の期間の自学のテーマ等を記しておく。次節に示す「自学帳の道標」と照らして見ると、子どもがテーマを選択し、取組んでいることが分かる。

9月11日(火) 3:10~3:25	6:15~6:40
A 1 算数の授業 今日の授業でSちゃん、Yちゃんの方法とMちゃんの方法がよくわかった	B 7 ことわざ 「犬も歩けば棒に当たる 急がばまわれ」
9月19日(水) 8:10~8:30	8:30~8:50
A 2 今日の授業で言いたかったこと 理科の発表で…	B 5 漢字の成り立ち 「備」「判」「舎」
9月21日(金) 8:30~9:00	9:00~9:30
A 1 今日の授業で発見したこと 今日は2つ! 1 素数で約数が求められる 2 最大公約数と最小公倍数も求められる	B 7 ことわざ 「さるも木から落ちる 河童の川流れ」
9月26日(水) 8:00~8:25	8:30~8:55
A 6 新聞ニュース 「震災がれき」	B 1 日記 「明日の6年生をはがます会について」
9月29日(土) 10:00~10:30	11:30~11:55
A 1 今日の授業での発見 算数の「分数の大小」のことだよ	B 7 ことわざ 「ねこに小判」「ぶたに真珠」
10月5日(金) 4:20~5:00	6:00~6:35
A 4 明日の授業で問題になりそうなこと 国語の「大造じいさんとがん」	B 7 ことわざ 「寝耳に水」「二階から目薬」
10月10日(水) 7:55~8:25	4:35~5:05
A 5 テレビを見て思ったこと iPS細胞作製によって ノーベル賞を受賞した山中さんの話	B 1 今日の日記 「英語のことについて」

## 2-2 自学帳の道標

紅林学級では、子どもの自主的な自学のための道標が示されている。

「書く」にはその行為を支える意志と道具が必要になる。「書こう」と思ったときに、必要な用具が手元にあることが大事になることを稿のはじめに記した。子どもが自学の内容や方法についての見通しを持ち、すぐにとりかかれるように準備されたものである。教師の確かな指導が子どものやる気を引き出し動かしていることがよく分かる。

# 自学帳で力をつける

新しい学習のスタイルが始まります。その名は「自学帳」。  
これをやり始めると、考える力がぐんと伸び、学ぶことが楽しくなります。わくわくしながら、スタートしましょう。

自学帳のきまり = 1日 見開き2ページ

- A. 日付を書く
- B. 書いていた時刻を記入する。 5:30 ~ 6:30
- C. テーマを選ぶ Aメニュー ・ Bメニュー
- D. テーマの番号をつけて、ノートに書く。 Aの1 Bの3
- E. うっとりするほど きれいな字で書く。 (家の人のサイン)

## Aメニュー (思考)

1. 今日の授業で発見
2. 今日の授業で言いたかったこと
3. 心に残った友達の意見
4. 明日の授業で問題になりそうなこと (予習みたいなもの)
5. テレビを見て思ったこと
6. 新聞を読んで感じたこと
7. 明日の計画
8. ○○のおもしろいところ
9. だんだん話 (創作)
10. 今、うれしいこと

## Bメニュー

1. 今日の日記
2. 漢字テストでまちがえた字
3. 計算テストでまちがえた問題
4. ぼくの作った問題10
5. 漢字の成り立ち
6. 言葉の意味
7. ことわざ

- ・新メニューはぞくぞく登場します。
- ・絵、マンガ、図を使おう。
- ・色ペンを使って、わかりやすく。

## おわりに

耳で覚えた言語のやり取りだけで「書ける」ようにはならない。「書く」ためには文字を習得するための学習活動が必ず必要になる。そして、少しずつ思考を深める「書く」に発展していく。その「書く」を鍛えていくことが「話し合い・聞き合い」学習を支える自分の考えづくりにつながっていく。そのことは自明の理であるのだが、いかにして「書く」を子どものものにし、学習力を強化していくかである。本稿で着目したのは、「書く」のほんの一部分に過ぎない。今後、「聞く」「話す」「書く」「読む」「考える」基本の学習活動を絡めて「書く」を具体的に追いかけていきたい。

## 参考文献

- 1) 青木幹勇「授業技術集成」, 新装版, 明治図書, 1989.
- 2) 青木幹勇「第三の書く 読むために書く 書くために読む」, 国土社, 1986.
- 3) 霜田一敏「子どもの側に立つ授業論」, 明治図書, 1985.